

人々の生活に寄り添う 実直な道具のすばらしさに惹かれて

木下尚子 熊本大学文学部教授 日本学術会議会員

人文学系(考古学・民俗学)

民俗学、考古学と興味の対象を 追いかけて

生まれたのは東京です。父の仕事の関係で間もなく名古屋に引っ越し、それから大阪、福岡、東京、兵庫と動き、小学校4回、中学校2回変わりました。どこに行っても転校生でしたね。その中で日常の世界は永遠でも絶対でもないことや、失敗はやり直せること、未知の土地では何かいいことがあるし困っても何とかなることを子供ながらに身につけたように思います。将来のことは大学生になってもイメージできませんでしたが、社会に男尊女卑の空気がまだ強かったので、女性は結婚したら終わりだな、と思っていました。

高校生の時に読んだ柳田國男の民俗学の世界に惹かれました。人々の生活のつましきやそこに時折り覗く遠い時の流れが面白くて、大学生になったらこういう世界に接したいと思いました。学部2年までに卒業論文と教育実習のほかの単位をすべて取って、明日から学校に行かない、なんて思って学割を20枚くらいもらって東京から夜行列車で福岡県、熊本県、鹿

児島県に行き、船で奄美・沖縄・八重山の島をまわりました。ひと月余かけて波照間島まで行き、ちょっと危ない目にもあい、くたくたになって東京にもどり、民俗学を学ぼうと決めました。

西表島の祖納^{そない}という聚落にはいつて調査を始め、2年間通いました。その中で、人々の生活に寄り添う実直な道具のすばらしさに惹かれ、結局卒業論文はモノを扱う考古学で書きました。復帰後まだ日が浅い当時の沖縄の考古学は、人類学的な香りがしました。それからずっと琉球列島の考古学を続けています。**考古学はモノや遺跡の言葉を聞き取る方法をもっています。**私はモノに手を引かれているような過去を見せてもらいました。この楽しさを学生に伝えたいと強く思います。

超晩婚…まわりは仰天

結婚したら人生おしまいだと思っていましたが、52歳でついに結婚してしまいました。お互いに長続きするように入籍2日目から別居し、快適に续いています。こんな夫婦もいるのですから、人生何とかなるものです。



Naoko KINOSHITA

文学部 修士課程 博士課程 企業(学芸員) 大学教授

先生に
恵られました

One day

6:00 起床
7:20 大学へ
7:30 就業
講義・研究指導
論文執筆・会議など
19:00 終業→帰宅
22:00 就寝

◎宝もの
遺物実測図のノート
◎落ち着く場所
研究室

profile

きのしたなおこ/九州大学大学院文学研究科修了。1995年熊本大学文学部助教授、1998年同教授。2005年熊本大学埋蔵文化財調査室長を経て、2011年10月より熊本大学埋蔵文化財調査センター長。専門分野「環中国海地域の考古学」。第6回雄山閣考古学賞受賞。第20期日本学術会議会員に選出。



伊江島で5世紀から7世紀の貝塚を、研究室で8年にわたって調査。考古学実習での合宿の番外記念写真(2010年9月4日 沖縄県伊江島にて)



Q.大学で「女性」教授が少ない理由は何だと思えますか？(複数回答含む)
結婚や子育てによる研究の中断 75% 能力の差 8%
学内に女性では教授になれない雰囲気がある 11% その他 30%